

# 人 NANA 人

たのた

中信ビジネス情報誌

2020 Vol.139  
Business information magazine

特集 [伝統工芸を継ぐ]

伏見人形 窯元 <sup>たんか</sup>丹嘉

## 伝統の中に息づく“新しさ”



〔経営者列伝〕

人・素材・機械・方法に  
新しい技術を付加し  
未知の「ものづくり」に挑む  
二九精密機械工業株式会社

〔この企業にこの技あり〕

セラミックを使った栽培システムが、  
社会を“根”から変えていく  
ハイトカルチャ株式会社

〔景気動向調査〕





# 人・素材・機械・方法に 新しい技術を付加し 未知の「ものづくり」に挑む

二九精密機械工業株式会社  
代表取締役会長 二九 宏和氏(左) 代表取締役社長 二九 良三氏(右)

▲左が代表取締役会長・二九宏和氏、右が代表取締役社長・二九良三氏。創業者の孫にあたり、宏和氏が長男、良三氏が四男。兄弟で会社の大きな成長を支えてきた。

1917年創業の二九精密機械工業株式会社。100年を超える会社の歴史において、近年の急成長の礎を築いた現会長・二九宏和さんに創業から創成期について、また、社長の二九良三さんに現在とこれからの目標をお伺いしました。

## 仏具の加工から始まり 技術を生かして一般産業へ

私たちの祖父にあたる二九長太郎が仏具の鈴や蠟燭立てを作っており、いわゆる真鍮（しんこう）の鋳物加工をする職人でした。そこから、私たちの父である二代目・保長が加工技術を活かして一般産業に関わるようになりまし。当時は仏具と同じような設備で仕事をしていたのですが、近代産業で使われる自動旋盤機などを導入してからは、大手機械メーカー様や家電メーカー様の部品類の製造を引き受けることになりました。



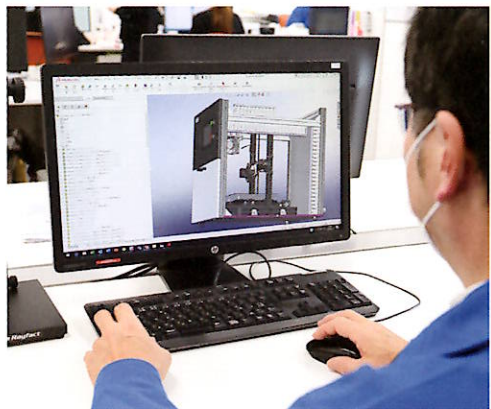
▲「βチタンパイプ」を製造する最初の工程。太い筒状のチタンをこの機械で何度も打ちつけ、伸ばすことで徐々に細くなり、最終的には極細0.3mm(内径)に仕上げる。

1963年には園部工場を新設し、それまで以上に量産体制を整え、生産数とともに会社の規模も大きくなっていきました。のちの利益につながる思い切った決断

工場を稼働させ、順調に売上は推移していましたが、そのうち70〜80%は大手メーカー様によるものでした。大きな注文が入る少品種大量生産の仕事は売上伸びが、薄利になってしまふのが悩みの種だったそうです。「従業員が一生懸命働いてくれるのに給料は上げられない」状況に父は心を痛めていました。また、取引先が傾いたときには、共倒れの危機もありました。「事業の根本は従業員を大切にすること」と考え、そして「世の中に貢献するために仕事をしたい」と意思を固めた父は、大手メーカーから受けていた大量生産の仕事を断りました。そして、取引先ごとの悩みや要望に応じて開発を行い、製品に仕上げる「多品種少量生産」に方針を切り替えました。中小企業としては勇気のある、大きな決断であったと思います。(二九宏和氏)

## 「ものづくり企業」への転身 βチタンパイプの開発

創立75周年を迎えた1992年に現会長である私の兄が社長に就任しました。父



▲同社の強みは、製造だけでなく設計も手掛けていること。図面を渡されて作るだけではなく、顧客の課題から開発・設計を行っている。



▲メディカル関係の分析機器や工業用ディスクベンサなどに使用されるノズルの先端を作る自社独自開発ロボット。最新の製造設備を備えて、多彩な針先加工への対応や温度制御用のヒーターノズルなどを製作している。



▲ノズルの先端を手作業でつなぎ合わせる細やかな作業。同社の精密な製品は、社員たちが持つ卓越した技術にも支えられている。

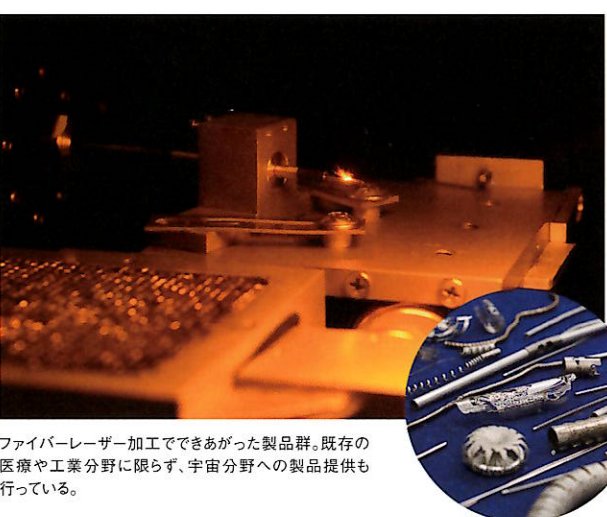
の時代から続く「お客様の困りごとをものづくりで解決する」仕事で、一部上場企業と数十年に渡って直接取引をさせていただいており、現在の大きな軸となっています。

2010年に「京都中小企業技術大賞」を受賞した「βチタンパイプ」は、曲がってもすぐに元通りになる、血液を分析する測定機の針についてご相談をいただいたことに始まります。私は、当社に入る以前、歯科技工士をしており、メディカル分野に関する知見が少なからずありました。相談を受けた時に気負うことなく、チャレンジできたことは、過去の自分の経験や業界でのつながりがあったからだと思っています。

しかし、ものは、そう簡単には完成しませんでした。データを取り、開発に要した時間は約10年。さらに製品化するには1億5千万円という投資が必要でしたが、運良く京都府の支援金事業に採択され、ようやく生産体制を敷くことができました。これには、当社の「ものづくり企業としての矜持」と、兄が八木工場を造り、足場を固めてくれたことも大きな要因であると感謝しています。

## さらなる飛躍を支える 人材育成と社員の幸せ

私たちのように自社で開発し、製品化して売り上げを伸ばすためには、やはり人材の確保と育成が重要です。当社では、大手メーカーなどで開発者として活躍していた



ファイバーレーザー加工でできた製品群。既存の医療や工業分野に限らず、宇宙分野への製品提供も行っている。

60歳代の方を再雇用で迎え入れていきます。60歳なんて、まだまだ元気。新卒で入社してきた若手社員らに経験と知恵を教え、技術の継承を進めています。

また、歴代の社長が「一番大切なのは従業員」と考えていたように、働く環境づくりにも力を入れ、2015年には「京都モデル/ワーク・ライフ・バランス推進企業」の認定を受け、翌年には「京都府子育て支援表彰」も受賞しました。私も会社員として働いた経験から働く環境と社員の士気の関係を実感しています。2015年には100人だった社員数が、2020年は200人を超えるまでに。まずは社員が気持ち良く仕事に取り組める環境を提供し、お客様のパートナーとして共に成長していきたいと考えています。(二九良三氏)

## 二九精密機械工業株式会社

メディカル・分析・産業機器・一般工業製品のコア機構部の開発、設計から製造を行う。顧客のイメージがカタチになるまでを一貫してサポートする「ものづくり提案企業」である。最近では、ドイツにも営業所を設け、活躍の幅はグローバルに広がっている。



▲2010年にできた社屋内。白を基調に、レンガの柱巻き(壁紙)がアクセントとなって洗練された印象。「事務所っぽくない雰囲気」で、社員の居心地の良い空間を提供している。

【本社】  
京都市南区唐橋経田町33-3  
【八木工場】  
京都府南丹市八木町大数下河原田8-1  
【京都工場・R&Dセンター】  
京都市南区吉祥院内河原町20-1  
【東京営業所】  
東京都武蔵野市中町1-2-9

### 沿革

- 1917年 3月 初代二九長太郎が創業
- 1953年 1月 二九保長が有二九製作所を設立
- 1963年 10月 京都府船井郡園部町(現、南丹市園部町)に園部工場を新設
- 1972年 8月 株二九製作所を設立
- 1975年 9月 株二九製作所が有二九製作所を吸収合併し、社名を二九精密機械工業株式会社に商号変更
- 1978年 11月 園部第二工場完成
- 1980年 4月 京都市南区唐橋高田町に本社事務所及び本社工場を新築完成
- 1992年 3月 創立75周年を迎える  
前副社長 二九宏和が代表取締役社長に就任  
前副社長 二九良三が代表取締役社長に就任
- 2009年 4月 ISO-9001:2008年度版に移行、認証取得
- 2009年 12月 βチタンパイプの開発が、(公財)京都産業21の技術顕彰「京都中小企業技術大賞」優秀技術賞を受賞
- 2010年 1月 ISO-14001:2004年版に移行、認証取得
- 2013年 8月 会社創業100周年を迎える
- 2017年 3月 医療機器製造業登録
- 2018年 10月 ISO-13485:2016年度版に移行、認証取得
- 2019年 2月 経済産業省認定「健康経営優良法人」(4年連続)
- 2020年 4月 八木第二工場竣工予定